

北海道研修レポート

ニセコ町農業と豊浦町の議会改革を視察

和水町議会運営委員会委員長 庄山 忠文

の多い丘陵盆地を形成して
いる。そのため内陸的気候
を呈し平均気温はおよそ8
℃であり、又、冬期の積雪
は2mにも達する所であり
人口は4,651名、高齢
化率は25%で町の総面積の
70%が山林、原野で主産業
は農業と観光を中心とした
サービス業の2つであり
観光については近年中国や
東南アジアの客数が増えつ
つあるとの事でした。農業
関係においては、経営耕地
規模が10ha～20haが一番多
く、主な作物は馬鈴薯35%
水稻33%、豆類20%が主で
大型農業であるが機械器具
が多額な為に政府が進めよ
うとしているTPPが成立
すれば、北海道の農業はどう
なるか解らないと不安を



ニセコ町役場で『自立する元気な町づくり』を研修(10月26日)

1日目はニセコ町を農業研修とクローズド型ごみ埋め立て処分場の管理状況等をめ立ててあります。ニセコ町は道央の西部ほぼ中央に位置し山岳に囲まれた波状傾斜の多い丘陵盆地を形成している。そのため内陸的気候を呈し平均気温はおよそ8°Cであり、又、冬期の積雪は2mにも達する所であり人口は4,651名、高齢化率は25%で町の総面積の

もたれていた。ニセコ町での農業振興費等はJAと協同補助を行い部門によつては $\frac{1}{2}$ ～ $\frac{1}{3}$ のため、農家にとつては助かっておられた農業研修にあたり、今後日本農業は TPP によつて大きく変化することであろうしかし、その変化に対応してやり通すことが大事ではないかと感じ研修を終えま

埋め立て物の飛散や野生鳥獣の侵入を防止すると共に周辺域の環境負荷を低減させることができると施設であり、平成14年から稼働し28年頃で満杯になる計画であった。現地の状況は基本通りに管理され、外部からの苦情等も無く、現時点では問題の無い施設であると感じ研修を終えました。



豊浦町役場で『議会改革について』研修(10月27日)

目的に向かって町施行部又議会が一丸となつて町作りに努力されているのを感じました。議会の基本条例等もいち早く取り入れ、通年議会も行われている町であります。議会基本条例制定までの経緯については平成22年8月より他町への研修を行い、基本条例、通年議会の調査研究をし、議員発

21日目は豊浦町へ議会基
本条例について研修を行いました。豊浦町は山海の恵
豊かな第一次産業の町として発展してきた町で、町の方針は「人と自然が共生する町、自立する元気な町」又、子ども達は夢を持ちお年寄りが安心して生活できる町、小さくともきらりとする町、ひかる町作りを目標とされている町であります。その

議による条例改正等が可決され通年議会が施行されています。通年議会の制度とは、「地方議会における定例会の会期を1年間とすることで閉会期間を無くし、必要に応じて本会議や委員会等が開催できる制度であり、現在の議会は町長が議長に開会を依頼することで開会と

終えました。
以上で、議会議員視察研修報告といたします。